

| | |
|--------------|--|
| Title | Essays on Economic Growth and International Technology Transfer |
| Author(s) | 田中, 仁史 |
| Citation | 大阪大学, 2007, 博士論文 |
| Version Type | |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/47153 |
| rights | |
| Note | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について <a>〉 をご参照ください。 |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

氏 名 田 中 仁 史

博士の専攻分野の名称 博 士 (経済学)

学 位 記 番 号 第 20826 号

学 位 授 与 年 月 日 平成 19 年 3 月 23 日

学 位 授 与 の 要 件 学位規則第 4 条第 1 項該当

経済学研究科経済学専攻

学 位 論 文 名 Essays on Economic Growth and International Technology Transfer
(経済成長と国際間技術移転に関する論考)論 文 審 査 委 員 (主査)
教 授 二 神 孝 一(副査)
教 授 三 野 和 雄 教 授 小 野 善 康

論 文 内 容 の 要 旨

本論文では、途上国の現地企業が主要な役割を果たすようなケースに焦点を当てながら、先進国から途上国への国際間技術移転の決定要因と影響について理論モデルを使って考察している。途上国の現地企業は、先進国の製品を模倣するか、または先端製品のライセンス契約を締結することによって、直接的に先進技術を学ぶことができると考えられる。本論文は4つの章から構成されているが、前半の2つの章では模倣を通じた技術移転の過程とその経済に及ぼす影響について考察している。第1章においては、動学的二国モデルを用い、発展途上国における製品の模倣を通じた技術獲得活動が、途上国と先進国間の技術格差および両国の厚生にどのような影響を与えるかを分析している。そのモデルの分析により、もし途上国における模倣活動の生産性が十分に高ければ、途上国は先進国の技術水準に追いついていくことができることと、もし消費者が製品の多様性を強く好む状況であるならば、模倣活動の生産性を高めることで、途上国の消費者のみならず、先進国の消費者の厚生も高めることができることが示される。第2章においては、模倣活動を通じた発展途上国への製品製造拠点の移動が、先進国の国内において、熟練労働者と非熟練労働者間の賃金格差を拡大させる方向に作用することを議論している。現実の先進国では近年、熟練労働の供給が増加しているにもかかわらず、賃金格差が拡大する傾向にあることが指摘されており、本研究の結果はその現実の観察とも整合的になっている。また、後半の2つの章においては、国際間技術移転におけるライセンス契約活動の重要性に注目している。第3章においては、ライセンス契約を二国の動学的一般均衡モデルの枠組みに取り入れた基本モデルを構築している。そこでは、現地企業がライセンス契約交渉において重要な役割を果たすような状況を考え、モデルの定常状態への移行経路とパラメータ変化がイノベーションや途上国への技術移転に与える短期・長期の効果を検討している。第4章においては、第3章のモデルをさらに拡張することで、製品のコピーが横行する状況下で途上国へのライセンスを通じた技術移転がどう決定されるかを検討している。また、途上国における模倣取締りを通じた知的財産権の保護強化が、先進国におけるイノベーションや途上国への技術移転に対し正の影響をもたらすことを示している。

論文審査の結果の要旨

本研究は、先進国から発展途上国への技術移転の問題を経済成長理論のフレームワークを用いて分析した極めてオリジナリティの高い研究である。技術移転の方法として本研究が対象とするのはイミテーションとライセンスングである。このような技術移転のもとで知的所有権の保護強化が与える影響について新たな政策的な含意を得ている。以上から、博士（経済学）に十分に値すると判断する。